パワーアラームAUP3LB　施工説明書

このたびは、弊社製品をご採用くださいまして誠にありがとうございます。
施工前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しく施工してください。又、
施工後は施主様に商品説明を行ってください。
尚、保守・点検の際も活用しますので、施工説明書・取扱説明書・仕様書は
所定欄に施工業者名を記入の上、まとめて施主様にお渡しください。

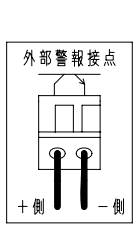
■施工上の注意

⚠ 危険

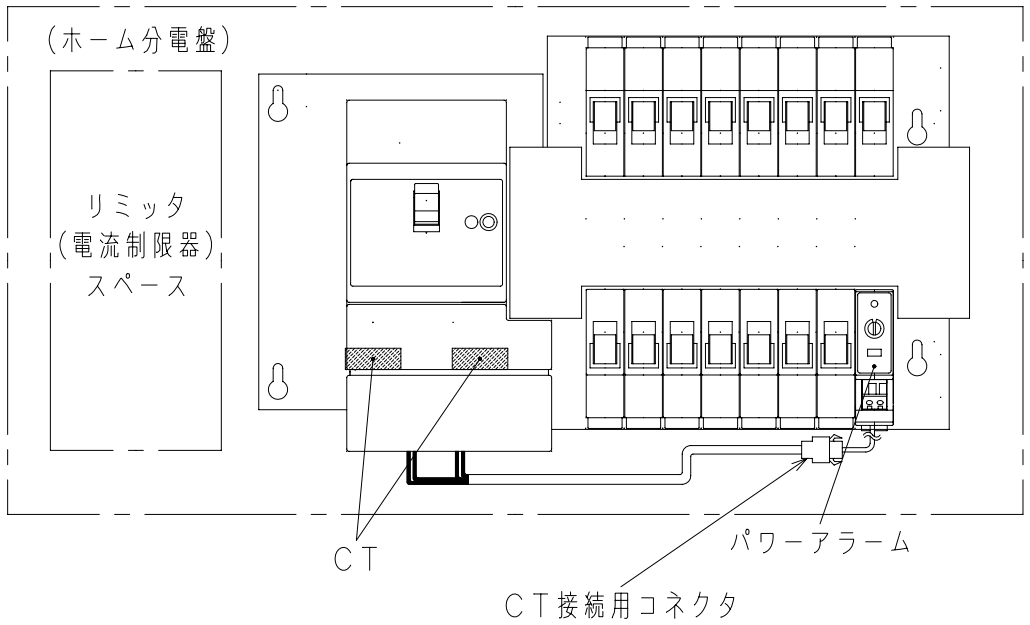
- 通電時の端子部には触れないでください。感電する恐れがあります。
- 配線及び交換作業は、主幹用遮断器を「ＯＦＦ」にしてから行ってください。感電や機器が焼損する恐れがあります。
- ＡＣ１００Ｖ専用です。ＡＣ２００Ｖへの接続はおやめください。破損や発熱、発火の恐れがあります。

⚠ 注意

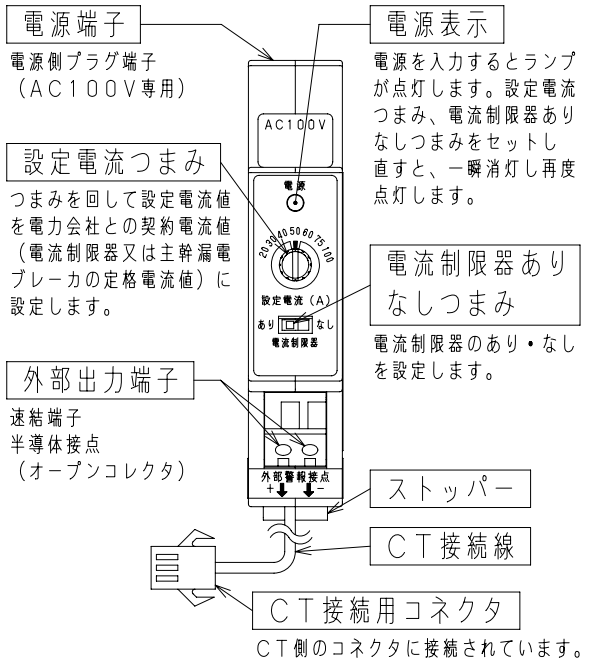
- 電気工事は、有資格者（電気工事士）が行ってください。
- 電源を接続したままで回路の絶縁抵抗を測定しないでください。故障の原因となります。
- 周囲温度－１０℃～＋５０℃、相対湿度９０％以下でご使用ください。
- 高温、多湿、粉塵、腐食性ガス、振動、衝撃、屋外など異常環境での設置はお避けください。
- ノイズ、サージ、電界、磁界などが発生する所では使用しないでください。誤動作の原因となります。
- ゴミ、鉄粉、虫などの異物および雨水が機器内部に入らないように施工してください。
- 専用の電流センサ（ＣＴ）以外をご使用にならないでください。故障の原因となります。
- 通電中は必ずＣＴが本器と接続されていることを確認してください。接続されてない場合、正常に動作しません。
  また、ＣＴ故障の原因となります。
- ＣＴ接続線を無理に本体から引っ張る、また本体に押し込むことはおやめください。故障の原因となります。
- ＣＴ接続用コネクタを無理に引っ張ることはおやめください。故障の原因となります。
- 設定電流つまみを無理に引っ張る、押し込む、無理に回すことはおやめください。故障の原因となります。
- 設定電流値が電力会社の契約電流値と一致するように設定電流つまみを回してセットしてください。
  設定電流値が契約電流値と異なる場合、使用電流を正確に読みとれず、正常に動作しません。
- 外部出力端子は制御線端子であり、ケーブル工事が必要です。
  電線種類はＡＥＯ．９－２Ｃをお使いください。電線のむき線長は９ｍｍにしてください。
  電線接続（外部警報接点出力線）は確実に行ってください。
- 外部出力端子の極性に注意して接続してください。
  極性を間違えて接続した場合、正常に動作しません。
- 弊社ホーム分電盤（プチパネル）への取付専用です。
  他社銅バーへ取付けた場合、火災の原因となります。
- 取外す際はストッパーを「解除」の方向へスライドしてください。
  また、設定電流つまみやＣＴ接続線を持って外さないようにしてください。故障の原因となります。
- 取付けの際には電源側プラグ端子はバーへ確実に差し込み、ストッパーを「固定」の方向へ下ろしてください。
  差し込みが不十分な場合、火災の原因となります。
- ＣＴには極性があります。交換の際には注意して取付けてください。
  極性を間違えて接続した場合、正常に動作しません。
- 本器は日本配線器具工業会規格・過電流警報装置付住宅用分電盤に基づいた設計となっております。規格に対応する住宅情報盤等と接続してご使用ください。対応していない住宅情報盤等に接続した場合、正常に動作せず、本器及び住宅情報盤等の故障の原因となります。



■取付位置例



■各部の名称と内容・おもな仕様



＜仕様＞

形式		ＡＵＰ３ＬＢ
定格設定電流（切替可能）		20，30，40，50，60，75，100Ａ
相線式		単相２線式／単相３線式
操作電圧		ＡＣ１００Ｖ（５０／６０Ｈｚ）
電流検出方式（切替可能）	電流制限器あり	Ｌ１相とＬ２相間のベクトル合成和電流を検出
	電流制限器なし	Ｌ１相とＬ２相の各電流値のいずれか大きい値を検出
外部警報接点		半導体接点方式 定格　ＤＣ３０Ｖ／２０ｍＡ
消費電力		約０．６Ｗ（警報発生時：約０．８Ｗ）

＜契約電流値変更の場合＞

電流制限器の交換の際には、必ず本器の設定電流値と契約電流値が一致するようにセットし直してください。
設定電流値が契約電流値と異なる場合や電流制限器あり・なしの設定が異なる場合は、使用電流を正確に読みとれず、正常に動作しません。

■動作詳細説明

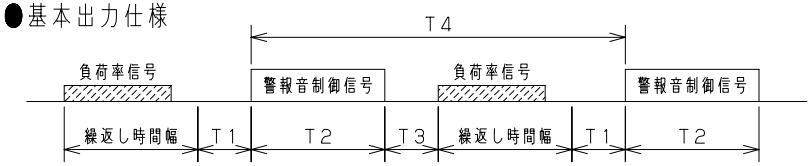
1）音声警報出力の条件について
右表の音声警報間隔ｔで音声メッセージ用のデータを出力します。

2）定格電流設定について
設定電流つまみを回し、目的の設定電流値に合わせてください。

負荷率Ｉ（%）		音声警報間隔ｔ（秒）
電流制限器あり	電流制限器なし	
Ｉ≦100	Ｉ≦90	不動作
100<Ｉ≦110	90<Ｉ≦100	１８０
110<Ｉ≦120	100<Ｉ≦120	１０
120<Ｉ	120<Ｉ	５

3）外部警報出力について
音声警報発生毎及び負荷率信号を外部出力端子から以下の仕様で接点出力します。
※負荷率Ｉとは、使用電流を設定電流値に対する比率（%）で表すことをいいます。

●基本出力仕様



・Ｔ１～Ｔ４は表１、負荷率信号及び繰返し時間幅は表２を参照してください。

表１

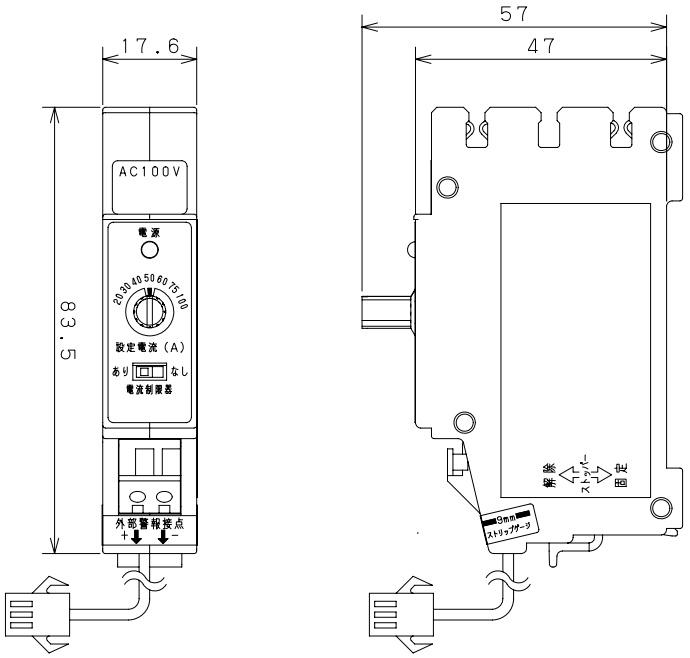
Ｔ１	約０．５秒
Ｔ２	約　２　秒
Ｔ３	約０．１秒
Ｔ４	負荷率Ｉ（%）：電流制限器あり 100<Ｉ≦110 / 110<Ｉ≦120 / 120<Ｉ；電流制限器なし 90<Ｉ≦100 / 100<Ｉ≦120 / 120<Ｉ；警報音制御信号間隔（秒）：１８０ / １０ / ５

表２

負荷率Ｉ（%） 電流制限器あり	負荷率Ｉ（%） 電流制限器なし	負荷率信号（接点出力時間）（負荷率信号の繰返し時間幅内で繰返し出力します）
Ｉ=0	Ｉ=0	
0<Ｉ≦10	0<Ｉ≦10	14±3ms
10<Ｉ≦20	10<Ｉ≦20	28±3ms
20<Ｉ≦30	20<Ｉ≦30	42±3ms
30<Ｉ≦40	30<Ｉ≦40	56±3ms
40<Ｉ≦50	40<Ｉ≦50	70±3ms
50<Ｉ≦60	50<Ｉ≦60	84±3ms
60<Ｉ≦70	60<Ｉ≦70	98±3ms
70<Ｉ≦80	70<Ｉ≦80	112±3ms
80<Ｉ≦90	80<Ｉ≦90	126±3ms
90<Ｉ≦100	—	140±3ms
100<Ｉ≦110	90<Ｉ≦100	154±3ms
110<Ｉ≦120	100<Ｉ≦120	168±3ms
120<Ｉ	120<Ｉ	182±3ms

5Hz（200±3ms）
繰返し時間幅

■寸法図



■故障の診断と処置

状態	考えられる原因	処置
電源ランプが点灯しない	電源は入っていますか？	本器が正しい位置に取付けられていること、主幹漏電ブレーカがＯＮになっていることをご確認ください。
音声警報が出る前に電流制限器又は主幹漏電ブレーカが動作する	漏電表示ボタンは出ていませんか？	ホーム分電盤の取扱説明書に従って処置してください。
	設定電流値は正しく設定されていますか？	設定電流値が電力会社との契約電流値とあっているかをご確認ください。
	ＣＴは接続されていますか？	ＣＴ接続用コネクタが正しく接続されていることをご確認ください。
音声警報が頻繁に出てしまう	設定電流値は正しく設定されていますか？	設定電流値が電力会社との契約電流値とあっていることをご確認ください。

以上の処置でも不明な点がございましたらお問い合わせください。

施工業者名

ＴＥＬ　　施工年月日　　年　月　日

仕様等、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。
また、ご不明な点がありましたら弊社技術相談室にお問い合わせください。

この取扱説明書の内容は２００８年　１０月現在のものです。

NITO 日東工業株式会社
技術相談室／愛知県愛知郡長久手町蟹原２２０１番地　C903440001
TEL（0561）64-0152　日本製

© NITTO KOGYO CORPORATION

http://www.nito.co.jp